

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( ~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	ツクイ札幌太平サンフラワー・風(そよぐ)	評価実施年月日	2月22日
評価実施構成員氏名	菅野富子、豊田幸子、佐藤すみゑ、加茂とし子、松林雅子、平田峰雪、尾田美津枝		
記録者氏名	菅野富子	記録年月日	2/25～3/3

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域の中で」という部分は理念の中に入っていない。	○ 会議で話し合い見直しをしていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	具体的に理念を共有する時間は設けてはいないが、実践していこうという意識はごく自然に備わってきている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の方との接点は作っていこうとはしているが、「理念」という意味合いでご家族や地域の方に理解を求めるといことは何もしていない。	○ 町内会側の理解を得られれば、地域の方には広報という形でお知らせしていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・天気の良い日は散歩に出かけ近隣の人たちと挨拶を交わしている。 ・週3回ホームの食材の買い物に出かけ、スーパーの人たちと会話を楽しんでいる。 ・畑でできた作物をおすそ分けしたり、近所の方にお花を頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・去年から町内会に入会しゴミ拾いや地域のお祭りなどに参加している。 ・町内のパークゴルフ大会にも参加させてもらった。 ・町内会のお祭りに行き楽しく過ごすなどの交流に努めている。	○ 老人倶楽部に参加し、またホームにも来て頂いて交流を深めていく活動をしたい
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年、地域の団体から介護についての勉強会を依頼されたが、ターミナルケアの方が2名おられ、いづつどうなるかわからない状況だったためお受けすることができなかった。 運営推進会議の中でも、地域のGHや支援センター連名で町内会にお便りを出してみたら、という話が出たが、まだ出来ていない。	○ 今年北区GH連絡会の役員をやることになっているので、近隣のGH間の連携を作る体制を整備し、地域との関わりも共同で持てるようにしていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価項目を会議の場で共有し、必要な点は話し合いを行なった。外部評価は日頃の運営を見直す貴重な機会であると捉えている。環境の改善は難しい部分もあるが、近づけるように工夫している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>昨年の外部評価の結果報告は行なった。会議の参加者が外部評価についてよく解っていないため「いや～、こんなに詳しくやるのかい。たいへんだねえ～」という反応ばかりで意見らしいものは出なかった。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>1/29に初めての实地指導があり、それまで非常に敷居の高かった市役所職員の方と初めてゆっくりとお話が出来た。札幌市は運営推進会議の出席も地域包括支援センターに任せており、サービスの質の向上という点まで関わってもらえるのか？</p>	○ 事例を教えてください。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会は特に設けてはおらず、必要な方も今のところはいない。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>・言葉による虐待も重視し、尊厳を大切に言葉遣い(接遇)等は本社巡回研修など、学ぶ機会が多くある。認知症介護リーダー研修に参加した際も自施設実習のテーマを「尊厳のあるケア」に置き、日頃のケアを見直す機会を頂いた。日々のケアの中でも職員同士で気がついたことは注意しあい、防止に努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書の説明は入居時にきちんと行ない、必ず質問の有無を聞いている。事前に契約書などをお渡しして、熟読していただくこともある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと不満や苦情を言葉にしたり、態度に表す方が多いが、表に現さない想いを察することが大切であると感じており、そうできるよう努力している。</li> <li>・気がついた職員は会議の時だけでなく、申し送りノート等を使い、他の職員に伝えチームケアをしていけるようにしている。</li> <li>・ご家族の訪問時にご家族にしか話せない気持ちを聞いてもらうようにし、職員に伝えてもらっている。</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなことでも入所者様の意思を聞き、判断してもらい尊厳を重視した関わりを持って行ける様話し合い取り組んでいる。</li> </ul>
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族等の訪問時には声をかけ入居者様の状況、暮らしぶり、エピソードなど気軽に話している</li> <li>・健康状態については変化が見られた時は速やかにご家族に連絡している。</li> </ul>		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<p>苦情箱は設置しているが一度も使われたことは無い。 普段から、気軽に話が出来ようような関係作りに努めている。</p>	○	<p>新年会や焼肉パーティーなど、ご家族同士で情報交換をする場は作っているが、それ以外にもご家族同士で話をする場を作っていくことは必要であると感じている。 当ホームをどのように見ているかよく知りたい。身近な気づきを教えていただくことにより共に築き上げるホームになっていけると思う。</p>
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	<p>お願いすると、どの職員も勤務の調整に気持ちよく応じてくれる。両方のユニットを兼務している職員が2名いるので、調整もしやすくなっている。</p>		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	<p>家庭と職場の両立が出来るよう職員の要望を聞いたり、給与面での改善を図るなどの努力は極力やっている。 入居様が重度になるに伴い職員の身体的、精神的負担も重くなっている中、現在の制度の下で離職者を出さないようにやっていくことは難しい面が多い。安定剤や向精神薬の使用を医師からは勧められるが、薬に頼らずにケアで何とかしたいと思うため、職員の負担は軽くはないと思われる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	昨年から研修の年間計画が立てられ、本社巡回研修が開催されるようになった。外部研修としてはレクレーションやケアプラン、センター方式などの研修に参加している。無資格の職員で、2級ヘルパーの資格取得を目指している場合は、授業に出られるようなシフトを作っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今のところはしていないが、ぜひ取り組んで行きたい。	○ 来年度、北区の管理者連絡会の役員をやるので、ネットワーク作りをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年に2回、事業所経費で飲み会を開催している。仕事の負担や家族の問題、家庭との両立など普段からさりげなく聞くようにしている。重度の方が増えるにつれ、介護する上でのストレスは明らかに増していると思われる。カンファレンスなどでケアの見直しなどを話し合い、できるだけストレスを軽減していきたいが、質の低下に繋がる場合もあり、悩みどころとなっている。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	今後、札幌にも有料老人ホームを建設していく計画だが、その際に介護職のトップになるのが現在GHで働く職員であるという考えを会社側は持っている。次期管理者候補を現在の職員から育てていく、という方針もあるため意欲的な職員は目標を持って働くことができる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・事前の面談で生活状況を把握し、ご本人の求めていること、心身の状態、不安を理解し、関わっていただけるようにしている。 ・事前の聞き取りで得た情報を記録し、入居前に職員に伝えて理解を深めるよう心がけている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族の求めているものを理解し、状況や悩みを聞く機会を作り、受け止めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	緊急性がある時は他のホームや小規模多機能を紹介したり、グループホームが向かないと思われる方は有料老人ホームを紹介することもある。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	以前は体験入居も受けていたが、希望者は1名のみだった。見学時に他の入居者とお茶を飲んだり、話をする機会を作ったりしている。ご本人の性格や、家族の事情により、納得するまでの話をせずに入居される方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・入居者様は人生の先輩であり、いろいろなことを教えていただくという考え方は職員の間で共有している。 ・ちょうり、木工、漢字等、教えていただくことが多い生活をしている。 ・全ての入居者様の得意分野で力を発揮してもらっているわけではない。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・新年会や焼肉パーティー、お誕生会などご家族にも参加してもらい、一緒に楽しめる機会を作っている。 ・定期的に外泊したり、外食につれていったり、通院後に自宅で晩御飯を一緒に食べたり、「落ち着かない時はいつでも電話してください」と言ってくださるなど、いろいろな形で支援して下さるご家族が多い。 ・入居者様の日々の暮らしの出来事や気づきを伝えることで共有に努め、一緒に支えて行けるようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員がその方のいい所を沢山話すうちに、息子さんの訪問回数が増え、そつと頭をなでるしぐさが自然と見られるようになった。時には受診対応が負担になるご家族もいるが、入居者様はご家族にしてみらうことを希望しているため、特段の事情がある場合を除いてはご家族にお願いしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・何時も行っていった美容室やスーパー等に定期的に行き、良い関係が続けていけるようにしている。 ・馴染みの人や場所が身近にない入居者様も多いので、ご家族様がより多く会いに来てくれるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・気の合う入居者様同士が良い関係でいられるよう、協力して生活できるようチーム全体で支援している。 ・認知症が重度で他の方と交われない方には職員が間を繋ぎ、楽しい時間を共有できるよう努めている。 ・困っている入居者様がいると、職員に教えてくれたり、自ら助けようとしている姿も多く見られる	○	認知力の差によるトラブルをどちらの尊厳も守りながら、不満を持たずその人らしく穏やかに生活していけるよう、ご家族も含めお互いに協力して取り組んでいきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今のところ、そのようなケースはない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・一人ひとりの思いや希望、意向を大切にケアをしている。 ・～したい。～行きたい。～食べたい。と言える関係を作り、それを実現できるように努めている。	○	一人ひとりが全て満足した生活ができているのか考えると、まだまだ深く思いや希望を捕らえていく必要があると思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・一人ひとりの自分のペースを大切に生活をしてもらうことを念頭に置いて援助している。 ・これまでの暮らしの把握は入居時に把握しているつもりであるが、理解していない部分も沢山出てきて、ご家族の訪問時に職員が聞き取りをするよう全員が心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・心身の状態は職員一人ひとりが小さな部分も伝えあい、必要に応じて医療に繋ぐなど、十分に把握していると思う。 ・一日の過ごし方はいつも考え、見直ししながら、課題を持ち取り組んでいる。	○	これでいい、と思うことは無く、管理者に問題を投げかけられ職員間で互いに問題意識を持てるよう声に出しあっている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・介護計画は職員全員で見直しや評価をしモニタリング、カンファレンスを開催し、計画を立てている。 ・ご家族に内容の説明をし意見を聞き現状を知らせ交付している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	カンファレンス、関係者等の話し合いはなされていて、対応は実施されているが、その都度介護計画は書き換えられていないので取組んでいけるようにする。
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	ケア記録が介護計画に沿った内容になっていない。時間の無い中で記録していくため、良い方法を考え取組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		<p>看取りを行なった時は夜勤2名体制をとり、身寄りの無い方は葬儀から納骨までをホームでさせてもらった。火葬場へも1階職員の協力を得て2階の職員のほとんどが行く事が出来た。</p> <p>通院同行などもご家族の状況や必要性に応じて対応している。</p> <p>協力医や訪問看護などを利用して、早期に安心して退院できる体制作りに努めている。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		<p>運営推進会議のメンバーに民生委員の方がいるので、定期的に意見交換は行なっている。</p> <p>(相談や質問をされることの方が多いが)</p> <p>行方不明時の対策として、近くの交番に協力を依頼している。</p> <p>お誕生会や行事等にはボランティアで高校生の歌、ギター演奏、ヨサコイ等多数の方々が訪れ、楽しい時間を提供してくれている。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		<p>隣のディサービスで月2回三味線のボランティアさんが来るときに一緒に参加させてもらっている。利用者の少ない土日などは一緒におやつ作りなどに参加させてもらうこともある。</p> <p>体調に不安があり入浴を拒否していた方がいた時は特浴を利用させてもらうことも検討したことがある。</p> <p>2ヶ月に1回、訪問美容を利用している。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	困難事例など、これから相談していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族の希望で、かかりつけ医を決めている。ホームの協力医は昨年5月に変え、非常にいい医師に恵まれた。今は密に協力関係を保ち、適切な医療が受けられている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ホームの協力医と共に良い先生を探しているが、近隣では見つかっていない。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週1回来てくれる看護師は利用者を心身共によく見てくれており、職員・利用者双方から信頼されており、協力医ともよく連携が取れている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>普段しっかりしている方でも入院すると不安定になるケースが多いため日頃のホームでの様子をきちんと伝えるようにし、入院中もお見舞いに行ったり、電話で看護師から直接状況を教えてもらうようにしている。協力医と相談しながら、できるだけ早く退院できるよう入院先と連絡を取っている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>必要と思われる方に関してはご家族の希望は、事前に協力医とともに聞き取っている。看取りが必要になった時は、医師や看護師を交えてカンファレンスを開催し方針を共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>食べたいもの、行きたい所、やりたい事などは、よく本人から聞くようにし、主治医と相談しながら、できるだけ実現させた。病気の進行に伴い、起こりうる変化を主治医から聞き、カンファレンスや連絡ノートで情報を共有し、準備した。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>フェースシート、アセスメント、センター方式などの資料を提供すると共に、管理者や職員間での情報提供とご家族の見学などを行い、できるだけスムーズに住み替えができるようにしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>福祉はサービス業であることは、常日頃から職員に話している。意識を変えることで、言葉かけなどで、改善されている。</p>	○	<p>慣れから来るルーズな対応が出てきていないか、今後も会議の際などで随時話していきたい。</p>
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>・その人に合った声がかけて意思表示してもらっている。困難な方には表情を読み取ったりしている。</p> <p>・その人らしい希望や願いを意図的に引き出す取り組みがまだ足りないように思う。</p>	○	<p>本人が思いや希望を表せるような働きかけを職員で話し合って行きたい。</p>
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>・一人ひとりのその日にしたいことを把握していない。</p> <p>・～したいという気持ちあまり出していない。</p> <p>・その時の本人の気持ちを尊重し大切にしながら、できるだけ個別性のある支援を行っている。</p>	○	<p>一人ひとりのその人が1日どのような流れでどのように過ごしたいのか、改めて見直してみたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>・自分で選んで着替える方は、任せている。褒める言葉を忘れないようにしている。</p> <p>・自己決定しにくい方は、職員と一緒に考えるか用意してしまっているように思う。</p> <p>・美容は希望により、行きつけの美容院に行っている。楽しみにしている。訪問美容を嫌がる入居者様は、外に出て美容院に行っている。</p>	○	<p>・おしゃれをすることを喜べるよう、洋服選びを一緒に楽しめるよう関わっていききたい。</p>
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>・食事の調理・盛りつけ・配膳・片つけ等も一緒に行き、包丁を持たない入居者様も手作業(もやしのひげとり・大根おろしなど)で手伝ってくれている。</p> <p>・食材の買い物も週3回、入居者様と一緒に行き、良い品を選んでもらっている。</p> <p>・食事を一緒に食べるのは一人(検食者)であり、一緒に楽しめていない。</p>	○	<p>食事を職員も一緒に楽しく食べられるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・あめが好きで家族が必ず持ってくる。タバコが大好きである。毎日コーヒーを何杯も飲んでいたり等、一人ひとりの好みを理解し、それを楽めるよう支援している。 ・行事等でお酒を飲めるようにしている。	○	もっと一人ひとりよく深く好みなど知っていくよう関わりを持っていきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・自宅でリハビリパンツ・オムツを使用していた利用者さんも、排泄パターンの把握で、下着パットのみの使用で、トイレ排泄ができ、失禁が無くなってきている。 ・一人ひとりのサインを全職員が把握し、トイレ誘導している。 ・尿意があることが衰えないよう失敗しても暖かく見守りしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・入浴したい日、時間は本人の意思を確認し、希望する時間に入浴できるようにしている。(一応13:00~16:00になっているが) ・仲の良い入居者様2人入浴、入浴剤希望に応じ対応している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・一人ひとりの生活習慣・身体状況に応じて運動の時間と休憩の時間のバランスを考え気持ちよく休息を取れるようにしている。 ・TVを観ている近くで寝ているという状況もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・食事作り、畑作、大作業、つけもの作り、お刺身・魚のさばき等得意とする場面、力を発揮し、考えていただく気持ちを大切にしている。 ・パークゴルフ、買い物(ホームの食材)など、楽しみと役割を持てるよう支援している。	○	すべての入居者様が何かの役割と楽しみをもって、自分の得意とするものを輝かせていけるよう取組んでいきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金の管理が少しでも可能と思える入居者様は所持し、自由に近くのコンビニに行き、買い物できるようにしている。(現在4人) ・職員と一緒に100円均一に行き、好きな物を買って、お金を払える様財布に一人ひとり入れ、機会を作っている。	○	自分でお金を財布から出して、買い物する経験が少ないので、機会を多く持ち、買い物を楽しめるよう取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・暖かなると毎日散歩、公園、買い物に出かけている。(開放感を味わい、季節、地域の活気を肌で感じる。) ・車イス使用散歩・お出かけも同じ ・月一度の夕食、外出レクを取り入れている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・温前にいきたいの要望は実現でき、延長として一泊温泉旅行の計画ができています。 ・「～に行きたい」の声が聞こえた時は、実現に向けて話し合っていくようにしている。	○	なつかしく育った故郷を繰り返し話して下さる方がいる。家族と協力・相談して実現できるよう取り組みたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話したいと要望があった時、家族の心配をしている時などは、気兼ねなく電話できるよう対応している。 ・自分で自由に電話することはできていない。 ・手紙等の交流を支援していない。	○	外部との交流をいろいろな形で(手紙・電話など)できるように支援していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・訪問客は笑顔で迎え、お茶だし等できる利用者様の場合は、一緒に用意し、接客するようにしている。 ・また来てください、いつでも来てください、と必ず声掛けするように話し合っている。	○	訪問者用スペースが欲しい。自室で過ごしている方が多い。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・その人らしい尊厳を重視したケアができていないか話し合われているが、言葉で「それはしないで下さい」等必要に応じ出てくる時がある。 ・身体拘束はしないという話し合いはケアカンファレンスの中で話し合っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・玄関の鍵は午後20:30～6:00の間かけるのみである。 ・ユニット(フロア)の鍵も玄関にタバコをすいに行く利用者様もいるので掛けることはない。 ・夜間は妄想・不穏で出て行く利用者様がいて、職員が他の方のケア中におこる可能性もあるので、鍵をかけている。 ・利用者様一人ひとりの外に出たがる傾向を掴んで、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒について行く等安全面に配慮し自由な暮らしを支えている。 ・その日の気分や状態を見極め適切な対応を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・日中は共に生活しながら、一人ひとりの居場所、状況を把握している。自室に戻る時は時間を把握し、用事を見つけて訪室し様子を見ている ・夜間は全室を見やすい場所で、事務をとり、2時間を目途に様子を確認し、入居者様の必要に応じ対応している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・入居者様は一人ひとりの状況に合わせて、注意が必要な何にか職員で話し合い把握し管理している。 ・※化粧水を飲もうとされる。刃物を持ち歩くので必要時に渡す等		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・転倒を防ぐための環境設定、介助方法、誤嚥を防ぐために、刻み食、トロミをつける。タバコを吸う方への気配り(吸う場所、ライターの扱いなど話し合い共有している。 ・事故やヒヤリハットを記録し、対策について検討し、家族への説明・報告を行なっている。	○	定期的に(事故が無いときでも)一人ひとりの状況から考えられるリスクや危険を検討していきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・全ての職員が応急手当の訓練を定期的に行っていない。	○	全ての職員が応急対応に関して定期的に訓練を行い、実際の場面で活かせる様、技術を身につけるよう取り組んでいく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は、定期的に行っているが、夜勤帯での火災などでは安全な非難は難しいと感じる。 地域の協力体制はまだ作っていない。 災害時の対応マニュアルができたのでそれに添って、非常食の準備などをしていく。	○	避難訓練へ参加を呼びかける前に、近隣の家に文章による協力依頼をしていきたい。その中でホームの見取り図や非難口、消火器の設置場所や、協力していただきたいことをお伝えしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・転倒を防ぐためのベットの高さ・足元にセンサーをつける等家族と話し合い協力してもらっている。 ・起こりうるリスクについての個別性に定期的な見直しは行っていない(必要時に話し合っている。)	○	定期的に見直しをしていくと同時に、早い対応策を全職員で取り組んでいく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・身体状況、食欲、排便などに変化等が見られた時は、申し送りノート等で全職員が共有し、観察し(バイタル・血圧・KT・酸素濃度)対応について、医療等に繋げている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・セットする人→飲んでいただく時に、名前・日付等の確認。担当した職員の名前でOKチェックをしている。 ・薬の処方や要領が変更になった時は、処方箋と共に申し送りノートに詳しく書き、全職員が理解できるようにしている。また協力医療機関との連携も口頭(TEL)だけでなく、FAXによる指示も同時に行なうように(聞き違いをなくするため)一緒に考え決めている。	○	それでもミスが起きた時は、改善方法をその都度話しあわれ、一人ひとりが自覚していくように、取り組んでいる。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	・おやつか三食のなかに必ずバナナなどを入れたヨーグルトを食べている。 ・毎日排便記録をつけている。 ・ふんばる力が弱ってきている方にはウォッシュレットを毎日2回以上かけるようにし、自然排便を促すようにしている。 ・繊維質の多い食材、乳製品(毎朝飲む)を採り入れ、身体を動かすようにしている。 ・水分を多く摂る(1日1200CC)		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	・毎食後、個別に口腔ケアをしている。 ・個人に合った口腔ケアを訪問歯医者さんに指示・指導してもらっている。 ・月・木の2回ポリドントによる義歯洗浄を行なっている。 ・肺炎に繋がることを全職員は認知している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事・水分の摂取量、状況を毎日チェック表に記録し、職員全員で共有している。 ・肉の嫌いな人には、肉料理のとき魚を、副食を残しがちな人には、食べられる工夫をするなど栄養バランスを考えている。 ・献立は、利用者様の残量や声を記録に残し、参考にしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・入居者様、職員全員インフルエンザ予防接種を受けている。 ・ノロウイルス等の細かいマニュアルがあり、必要な時期に全員で再確認し、予防対策に努めている。(早期発見・早期対応に関する取り決めが全職員で話し合われている。) ・手洗い・うがいの励行		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・毎日 まな板・布巾・包丁等漂白し、チェック表につけている。 ・調理器具・台所水周りの清潔・衛生を保っている。 ・食材の残りは、鮮度や状態を確認し、冷凍したり、処分している。 ・週3回買い物に行く(2.3日分の買い物) ・月に1回冷蔵庫掃除をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・玄関は広く、開放的である。が、玄関を出ると駐車場になっているので、雰囲気作りが難しい。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・テレビの音を大きくして欲しい方がいる一方、居間でうたた寝したい方がいるなど、共有空間を全員の方が居心地のいい場にするのは難しい。 ・台所も奥にあるので入りづらい。 ・生活感・季節感を味わえるように工夫している。月毎に行事の雰囲気をだし、献立も考え一緒に作っている。 ・フロアの飾りつけ、家具の配置などは入居者様と一緒に考え行なっている。	○ 一人ひとりが居心地のよい、安心してゆったりと過ごせるよう、その人の気持ちを聞いて取組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・認知度の差から生じるトラブルを防ぐ、また、テレビを静かに見たい、一人でゆっくり自由にテレビを見たい等、個人個人にあわせ、せまい空間であるが工夫して家具の配置をしている。 ・廊下の奥に椅子をおき、静かに過ごせる場所を作っている。 ・食卓テーブルも活用されている。(ドリル・カルタ・パズル等)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・その人に必要なものとして、TV、ラジオが持ち込まれ、自室で活用されている。 ・写真や使い慣れた日用品が持ち込まれている。(椅子、テーブル)反面どうしてここに私のものがあるの？変だヨと不穏に繋がることも時々あるが、アルバム等懐かしく見入っていることが多い。 ・ナイフ・ドライバー等の危険物を職員が管理して、必要時に手渡すようにしている入居者様がひとりいる。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・居間・トイレ等は常に換気されている。(24時間) ・室内の温度は職員の感覚だけではなく、一人ひとりの状態に配慮して行なっている。時にはひざかけ、1枚重ね着などで個人差を配慮している。 ・床暖房などで乾燥しやすいので洗濯物を干したり、加湿器で対応している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・家具の配直、生活空間で転倒に繋がる原因が無いが常に気をつけている。 ・夜間歩行が安定しない方は、ベッドの下にセンサーを置き、トイレへの移動時に職員が見守れるようにしている。 ・ベッドの高さを個人の身体機能に合わせて調整し、座位を保ち易く、また、スムーズに立位がとれるようにしている。 ・トイレは肘掛、背もたれ付きのものや、手すりのみのトイレなど設備面、広さがそれぞれ違っており、身体機能に合わせて使ってもらっている。	○ 転倒を防ぐということから、歩行介助で本人のできる力を生かした介助になっているか、手をかけすぎているか見直ししながら取組んで行こうと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>・トイレや居室は表示してあるが、入居当初以外はほとんど混乱は見られない。</p> <p>・混乱している時は職員がその都度声掛けすることで改善されている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>・中庭と、広い畑があり、日常にお茶のみ、談笑の場として活用し、畑は10種類以上の作物と花でにぎわい、利用者様が中心になり(苗作りから)畑作をしている。調理に必要なものをその都度とってけている。</p>	○	<p>洗濯物を干すことが、仕事として定着してきているので、駐車場の一部にもう一つ物干しを置き、朝の日課として取り組めるようにしていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・明るく、楽しく、笑いのあるホーム
- ・いろいろな所に出かけて変化を楽しんでもらう
- ・協力医と連携しながらのしっかりとした健康管理
- ・生活リハビリに組み込み、その人らしさを回復していく
- ・職員みんなが助け合い、支えあっていける暖かな職場作り